

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年4月30日

事業所名 ほっこりの里

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・個別支援が必要なお子さんの、スペースの確保も大切にしています。	・より、快適に過ごせる空間を目指し、安心、安全を第一に改善を目指します。
	2	職員の配置数は適切である	○		・受け入れの準備段階から、職員を配置し、十分な支援体制を整えております。	・お子さん1人あたりの、関わりの量を増やせるように、今後も適切なスタッフを配置します。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・バリアフリーだけでなく、視覚支援等、過ごしやすい環境を心掛けています。	・事業所内だけでなく、家庭内においても、それぞれの特性に合った設備を実現できるように、ご家族との連携も目指します。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・月1度、職員会議を設け、振り返り、原因究明、反省、方向修正、微調整とフィードバックを大切にしています。	・浮かび上がった、改善目標などは、実行リストに書き出すなど、行動に移していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・昨年度の結果をふまえ、意見の多かった、地域の障がない子供との交流の場を考え、当事業所開催の、フェスティバルを使用した、誰でも参加できる、ダンスイベント等で交流の機会を設けるなど、改善に努めました。	・定期的に、評価表の振り返りを行い、改善点の進行具合をスタッフ間で共有していきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・当法人、ホームページにて記載しております。	・掲載だけに留めず、周知を増やす事で、常にサービスの質の向上を意識できる事も、大切にしていきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・平成26年度に第三者委員会評価を受け、福祉サービスの質の向上に努めています。	・定期的に、第三者評価を受けたいと思います。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・各専門の研修だけでなく、毎年、大阪府児童発達支援育成事業等を利用し、専門家に訪問して頂き、直接支援のアドバイスを受ける機会も大切にしています。	・最新の情報に目を向け、スタッフ1人1人の専門性の向上を目指していきます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・ご本人、保護者から上がっていない、表出されていないニーズの可能性も含め、面談での情報の聴き取りを大切にしています。	・正確な情報を得るように日々、援助技術の質を高め、また、幅広い計画案を提供できるように、知識の向上を目指します。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・ADL、IADLと項目毎に標準化されたアセスメントツールを使用しています。また、強み、得意の聴き取りにも力を入れています。	・より、正確な情報を得る事ができるツール等がないか、情報にアンテナをはる事を大切にします。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・研修等で知り得た、療育支援等をチームで共有し、プログラムの中に組み込んでおります。	・立案だけでなく、活動の目的や目標を、スタッフ1人1人が把握できている事を目指します。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・活動の振り返りを行い、方向修正や入れ替え等、日々変化を付ける事を大切にしています。	・実生活での活用に繋がるプログラムなど、今後も新しい情報に注目していきます。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・学校からの宿題に沿い、子供たちと相談しながら設定しています。	・目標設定や、支援方法など、学校との足並みをそろえる事ができるように、日頃からの連携、信頼を大切にしていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		・集団活動では、必ず目的や目標をつくる事で、自発的な参加を重要視しています。	・その時々環境、学校の行事など状況に合わせて、個別、集団の内容を組み込んでいきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・毎朝のミーティングでは、支援内容、役割だけでなく、子供たちの頑張りや、焦点のあてたい所を確認、共有しています。	・お子さんにも、スタッフの役割が見えるように、視覚化する事を大切にしていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・振り返りの際は、その支援が的確な難易度だったかや、方向修正、微調整を大切にしています。	・支援の進み具合等、ご家族にも伝えていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・個別支援計画書の項目に沿い、支援の進行具合、方向修正や改善を記録しています。	・重要な気づき等は、スタッフが把握しやすいように、毎朝のミーティング時に報告し、共有しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・成長や、環境の変化に合わせた、支援計画の見直しを行っております。	・発達支援の達成状況や、必要性の再検討を定期的に取り入れて行きます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		・個々に合わせた、日常生活に繋がる自立課題を提供しています。	・今後も、成功体験を積める取り組みを考案し、自己肯定感を育める活動を取り入れて行きます。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・お子さんに合わせ、女性スタッフ等、状況に合わせた参画が可能です。	・サービス担当者会議だけでなく、日頃より、関わりの強いスタッフから、課題や支援の進行状況を相談支援員へ連絡、報告を行い、信頼関係を築いていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・今年度は、学校の担任の先生が、実際にデイサービスでの様子を見学できる機会も設けました。	・お子さんの頑張りや、焦点をあてたい所など、周囲の支援者が分け隔てなく共有できるように、今後も学校との信頼関係構築に努めて参ります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		・医療ケアを必要とする児童を受け入れる場合には、主治医、関係機関との連携を取らせて頂きます。	・日頃から、連携先の確保や、医療ケアを必要とする、お子さんを受け入れる体制を整えていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・ご家族や、相談支援員より、成育歴を把握し、支援に入るうえで、押さえておくべきポイント等重要視しています。	・これまで受けてきた発達支援、療育支援を把握し、必要に応じて、関係機関との連携を図っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・生活介護事業、就労継続支援(B型)事業を併設しており、そちらに移行する場合はもちろん、他事業所へ移行される場合も、情報提供致します。	・進路先において、情報を提供する事で、移行に伴う不安や心配を軽減するだけでなく、ご本人の着目すべき強みなどの引き継ぎを大切にします。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・児童発達支援育成事業や療育園等専門機関への訪問、連携を行い、そのアドバイスを元に、支援の構築も図っています。	・幅広く、専門的な支援を受けれる場を目指し、引き続き、専門機関との連携を密に行っていきます。

関係機関や保護者との連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	・令和1年度は、他放課後デいの交流会(お祭り)への参加。また、当事業所開催のフェスティバルでは、地域の方が参加できるダンスイベントも開催致しました。	・引き続き、交流の機会を積極的に取り入れます。また、交流の活動内容や様子等を、当ホームページに記載するなど、ご家族への発信も大切にします。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	・参加の機会があれば参加	・協議会の情報を集め、参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	・各家庭の思いを尊重する事を大切にしています。	・ご家族のお子さんに対する期待や、希望を大切にしながら、発達状況や課題を共通理解できるように信頼関係を大切にしていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	・ご家族の思いと照らし合わせながら、負担とならない事も心掛けております。	・研修等で知り得た情報の発信を欠かさず行います。また、ご家族が参加できる研修等の周知も行って参ります。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	・契約時に適切な説明を行います。	・説明の際は、お子さんを預らせて頂いたり、時間に余裕を持てる事を大切にします。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	・事例の紹介など、ご家族にとってイメージしやすく、すぐに取り入れる事が出来る情報の発信を大切にしています。	・幅広くお答えできるように、日頃より、専門性を高めて参ります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	・ホームページを作成致しました。その中で、保護者間の連携に繋がるような機会を設ける事ができるように調整していきます。	・保護者会を設置する場合、負担とならないように、参加しやすい事も大切にします。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	・日頃から、子供、ご家族が声をあげやすい雰囲気も大切にしています。	・モニタリングなど面談を行う際に、事業所側から、苦情や気になる点などの、汲み取りを定期的に行います。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	・ホームページにて、活動プログラム、行事予定を毎月更新し掲載しています。	・情報の更新、発信を継続していきます。
	35	個人情報に十分注意している	○	・個人情報を取扱う場合は、必ず、ご家族の了承を得ています。	・個人情報の取扱いについて、定期的にスタッフ間で確認をいれていきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	・スタッフのほとんどが、絵カード交換式のコミュニケーション方法を学んでいます。必要に応じて、家族間での意思疎通のフォローを行えます。	・語彙数を増やすだけでなく、ご家族や周囲の人と、良いコミュニケーションを築きやすいように、良い言葉へ強化も大切にしていきます。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	・地域の方が参加しやすいように、招待ポスターの配布、近隣への挨拶を欠かさず行っております。	・毎年のフェスティバルの開催、地域公民館クラブとの交流など、地域との関わりを大切にしていきます。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・緊急時の対応など、全スタッフが対応できるように、マニュアルの策定に努めています。	・マニュアルの見直し、改善を繰り返して行っています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・毎月、避難計画を立てたうえで、避難訓練を実施しています。また、反省点、改善点など記録も残しています。	・非常災害時、スムーズに避難できるよう、あらゆる災害に備え、月に一度避難訓練を実施していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・日頃より、虐待はもちろん、虐待に繋がりに得ることも、慎重に対応しております。	・施設内での研修、検討会の場を持ち、虐待防止への意識を高め、虐待に繋がる恐れのある事案について、職員間で振り返りを続けていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・車いす等、安全上、身体固定を必要とする場合のみ、ご本人、ご家族と話し合い、個別支援計画書に記載した上で、固定する場合があります。	・引き続き、支援者側が身体拘束と捉えていない対応についても、ご本人の意思や価値観が1人1人違う事をふまえて、慎重に対応させていただきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・アレルギー性の食材は、おやつやクッキングの際、扱わないようにしています。	・その日に提供した給食やおやつ記録を残していきます。また、アレルギーを抱えるお子さんの受入れの際は、医師の指示やアドバイスを必ず、取り入れます。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・月に1度の検討会、また、日頃より、直ぐに書きだせる環境整備にも努めています。	・ミーティングの際、ヒヤリハットの作成の時間を設け、振り返る時間を作る事で、気づけていない小さなヒヤリの発見も大切にします。	